

2019年度 和泉短期大学 シラバス

授業科目名	手話	教員氏名	南 玲子
学年	2年	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1単位
必修・選択	選択	実務経験	
テーマ	耳の聞こえない方々との出会いとコミュニケーションの心をはぐくむ		
ディプロマポリシー	1.保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、幅広い教養を身に付け、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。		○
	2.保育・福祉の専門的な知識・技能を修得し、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身に付けている。		○
	3.保育・福祉の専門職として多世代にわたる人々の権利を護り、愛と奉仕の精神を実践できる。		○
カリキュラムポリシー	科目群Ⅰ 教養	キリスト教主義の精神を踏まえて、保育と人権にかかわる人としての価値観を再構築する	○
	科目群Ⅱ 原理	様々な世代を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕に基づく人間観を養う	
	科目群Ⅲ 知識・技能	子どもの心と体とそれを取り巻く環境を知り、共に成長するための様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につける	
	科目群Ⅳ 実践	学んだ知識、技能、価値観を現場に即して臨機応変に実践できる体験を積み、キャリア形成の基礎を培う	
授業の概要	<p>1、名前・住所・趣味・仕事など、一通りの自己紹介ができる程度の手話表現を中心に学ぶ。</p> <p>2、幼児保育などの現場に増えてきた手話の歌について、その取り組みと意味を考える。</p> <p>3、耳栓体験などを通じて、耳の聞こえない方の実生活をおもんばかる。</p> <p>4、聞こえないゲストティーチャーの体験談を聞き、実際の姿に触れる。</p> <p>5、手話通訳制度など、聞こえない人と取り巻く法律・環境について学ぶ。</p> <p>6、この授業は、手話による演習のため、基本的に音声は使わない。</p> <p>7、授業全体を通し、グループワーク・ディスカッションを豊富に取り入れ、コミュニケーションの基礎を体感できる授業を目指します。</p>		
授業の到達目標	<p>保育・幼児教育・福祉職を目指す学生たちが、卒業後、耳の聞こえない幼児・児童・保護者などに会った際、手話に対する苦手意識を持たず、心を開いてコミュニケーションが取れるようになること。相手の立場に立って、必要なコミュニケーション手段を工夫できること。また、手話通訳などを依頼しなければならなくなったとき、どのような機関に問い合わせればいいのか、相談先等の情報が身につけていること。</p>		
テキスト	講師が準備したテキストを、コピーして使用(大泉書店「超カンタン!手話で話そう」本人著)		
参考書	なし		
プリント	授業中にプリントを配布する		
ポートフォリオ	なし		
課題の確認と成績評価方法	授業へ臨む姿勢50% レポート20% 実技・筆記試験30%		

授業概要と課題

第1回	テーマ 内容	【はじめに】手話の基礎。あいさつ。簡単な意思表示方法を学ぶ。全体として音声を使わない授業になるため、その意味・意義も解説。
	授業外指示	初回到学した手話のあいさつ、簡単な意思表示方法は、今後全編にわたって使用されるものになるので、次週までにしっかり覚えておく。
第2回	テーマ 内容	【名前】自分の名前の手話表現。また、クラスの一人一人違う名前から、単語による様々な表現を知り、他者の名前も表現できるようにする。
	授業外指示	「自分の名前」の表現を、次回までにしっかり覚えておく。
第3回	テーマ 内容	【指文字】手話の五十音にあたる指文字。単語自体の表現が分からない時、また、固有名詞などの表現では指文字はととても便利です。グループでしりとりなどしながら、楽しく学習。
	授業外指示	次回からの授業では、指文字も多く使いながらの進行になります。しっかり覚えて、読み取れるようになっておきましょう。
第4回	テーマ 内容	【住所】自分の住まいの都道府県、市町村の手話表現を学ぶ / 【手話の歌】幼児教育の現場で増えてきた手話の歌のあり方・表現方法の基礎を学ぶ。グループで助け合って一つのものを表現していく方法を探る。
	授業外指示	「自分の住まいの都道府県・市町村」の手話表現を覚える。「手話の歌」はろう者のゲストティーチャーを迎えた時、披露することになるので、グループで協力し合って作上げていく
第5回	テーマ 内容	【仕事・学校】将来の仕事への夢や、学校生活にかかわる手話表現。互いの希望職を尋ね合う会話レッスン。
	授業外指示	「自分の仕事・学校の表現」ができるようまとめておく。
第6回	テーマ 内容	【趣味】一人一人の、好きなものを伝えあう。趣味の会話表現。ジェスチャーで通じ合える楽しさなども体感し、手話単語にこだわらないコミュニケーションの豊かさに触れる。
	授業外指示	「自分の趣味」の表現を覚えておく。
第7回	テーマ 内容	【耳栓体験】耳栓をして、学校周辺を歩く。コース内で、グループごとに「声を使わず」コミュニケーションを取って課題をクリアしていくオリエンテーリング形式のワークです。聞こえない人にとっての集団行動、ディスカッションのあり方を体感。
	授業外指示	各自、次週までに、体験をレポートにまとめて提出。
第8回	テーマ 内容	【家族】両親・兄弟姉妹など、家族構成の手話を学ぶ。互いに家族について質問しあう、会話レッスンも。
	授業外指示	「自分の家族構成」についての手話を覚えておく。
第9回	テーマ 内容	【ゲストティーチャー準備】翌週に控えた、ろう者ゲストティーチャーをお招きするための準備。班ごとに手話の歌をまとめ、質問内容を整理するなどのグループワークとなります。
	授業外指示	次週に向けて、内容をしっかり身に着け心を込めてゲストが迎えらるよう、個々でも準備しておく。

第10回	テーマ内容	【ろう者ゲストティーチャー】実際に耳の聞こえないろう者講師を招き、実生活の様子や苦勞、ろう者ならではの仕事ぶりなどを話していただく。学生たちからも手話の歌を披露したり積極的に質問をするなどして、交流を深める。
	授業外指示	各自、次週までに「ろう者ゲストを迎えて」の、出会いや感想について、レポートをまとめて提出。
第11回	テーマ内容	【数字】手話の数字を学ぶ。誕生日のほか、値段・時間など日常会話に必要な数字の表現方法を学習。互いが誕生日や値段などを尋ね合うグループワークも。
	授業外指示	自分の「誕生日」の表現をきちんと覚えておく。
第12回	テーマ内容	【まとめ】これまで学んだ手話表現のまとめのほか、手話ろう者取り巻く制度・行政などについての基礎知識を学習する。聞こえない方々とのコミュニケーション方法や、テレビや映画の字幕、通信手段などについて、グループディスカッションなども行います。
	授業外指示	卒業後、聞こえない方々と会った際に必要となる重要なデータを学ぶことになるので、しっかりと頭に入れておくとともに、将来の参考のために、この資料を手元に保管してほしい。
第13回	テーマ内容	【筆記テスト】これまでの学習内容を確認する筆記テストを、授業内で実施。
	授業外指示	テスト内容を把握し、今後の参考にしてください。
第14回	テーマ内容	【実技テスト】当初目標とした、手話による自己紹介ができるようになったかを、実技テストで確認。
	授業外指示	自分の学習成果を把握し、今後の参考にしてください。
第15回	テーマ内容	【交流会】これまで学んだ手話で、クラス全員による交流会。声なしの手話で行われる。半年の積み重ねが豊かな表現力につながっていることを学生たちにも実感してもらえんと思います。これまでの演習のまとめであり、互いが実際に手話で話す！というチャレンジに。
	授業外指示	卒業後、聞こえない子供たち・保護者等に出会った際、自分の母校で手話の授業があったことを心にとめ、いざというときのコミュニケーションの道しるべとしてもらいたい。